＜アメダスの原理＞

●天気予報●○○

正確な天気予報をするためには、多くの地域で観測をして、できるだけたくさんの気象観測データ（気温、湿度、風向、気圧 etc・・・）が必要です。

そのため気象庁では、 気象台・測候所 アメダス(1300ヶ所) 気象レーダー 気象衛星「ひまわり」 を使って、気象観測データを収集しています。

○●アメダス●○

アメダス（AMeDAS）とは、『Automated Meteorolrgical Data Acquisition System』の略語で、直訳すると「自動気象データ収集システム」です。日本では、「地域気象観測システム」と呼ばれています。極地的な豪雨に備えるため全国すべてのアメダスで、降雨量を観測し、そのうち 800 箇所では、気温・風向・風速・日照時間を観測しています。降雪地域では、積雪量の観測も行っています。

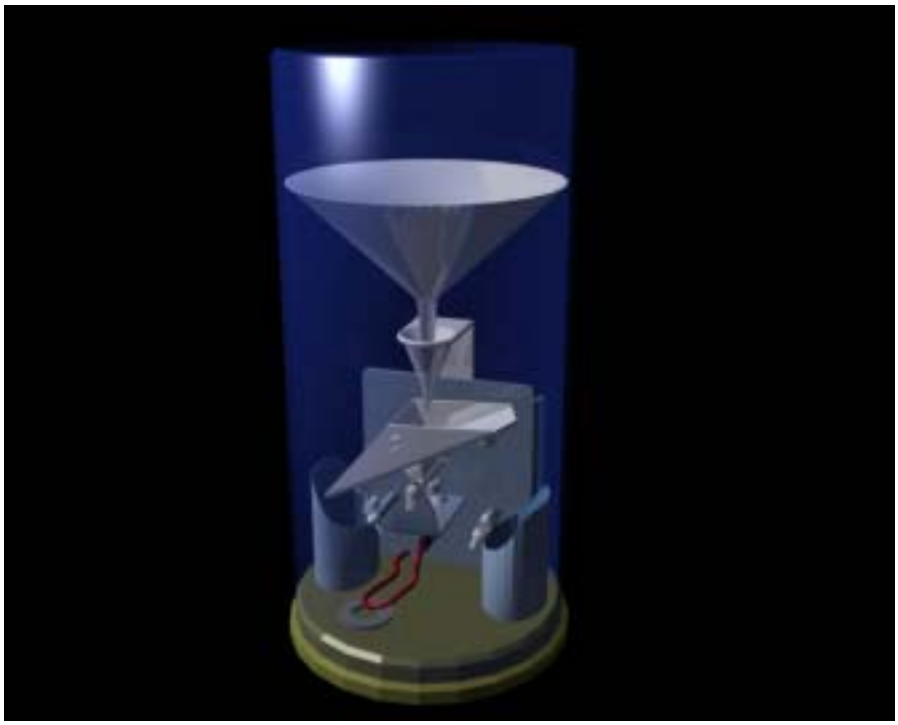
○●アメダスの雨量計●○

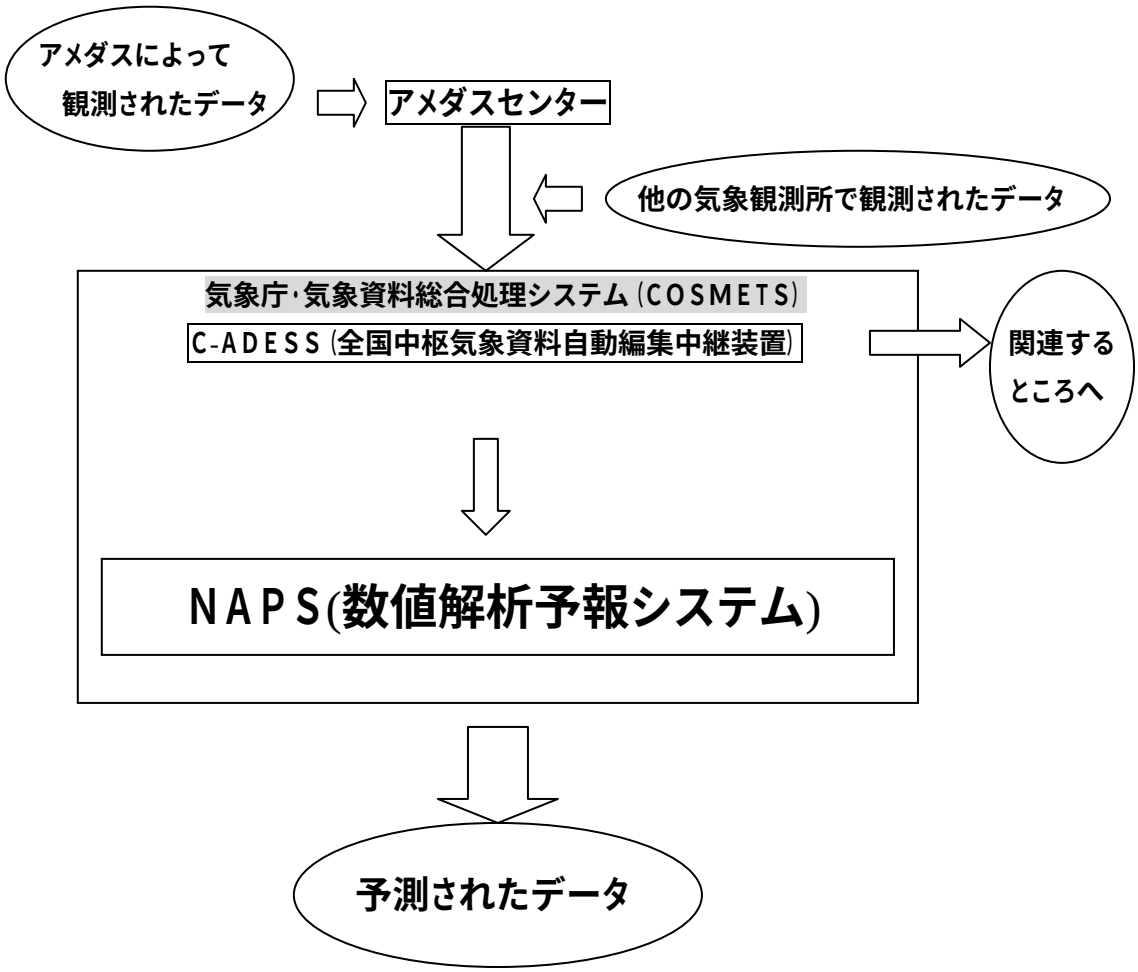
自動的に降雨量が測れる、「転倒ます型雨量計」（下図）を使用

① 雨が降り始め一つの転倒ますに 0,5mm の雨がたまります。

② 雨がたまったますが倒れもう片方のますに 0,5mm の雨がたまります。このとき、ますが一回倒れるごとに、スイッチに触れ、「0,5ml の雨が降った」という信号を発生させます。

これを繰り返すことにより、0,5ml 単位の詳細な降雨量測定ができます。





＜解説＞

①アメダスによって観測されたデータはリアルタイムでアメダスセンターのコンピュータに送られ、蓄積されます。

②アメダスセンターに蓄積されているデータと、他の観測所で観測されたデータは、気象庁の気象資料総合処理システム（COSMETS）に送られます。

(COSMETS は、「C-ADESS」と「NAPS」という二つのシステムから構成されています。)

③「C-ADESS」（全国中枢気象資料自動編集装置）では、送られてきた各種の気象観測データを、一ヶ所に集めて編集し、関連するところに送ります。

④「NAPS」（数値解析予報システム）では、「C-ADESS」で収集･編集されたデータから、天気予報などで使われる各種の予測データを作成します。（これを数値予報という。）これは、方程式などによって風や気温などの時間変化を、コンピュータで計算して将来の大気の状態を予測するものです。

⑤NAPS で予測されたデータを各種機関に送り、TV で見るような天気予報になります。

※数値予報そのものは数値のままです。TV で見るような天気予報は数値予報からわかりやすい表現に直したものです。